2018.11.3 岩手日報

旭日双光章

地元の「食」を未来へ

「素晴らしい食材、食文化を大切に残したい」と思いを新たにする伊藤重治さん

元県すし業生活衛生同業組合理事長

伊藤　重治さん(72)

盛岡市長田町14の2

全国に知られる盛岡市長田町「鮨(すし)懐石　重兵衛」の代表取締役。2005年から10年間、県すし業生活衛生同業組合理事長を務めた。受章に「先輩、後輩、妻や弟子たち、皆さんに感謝しかない。岩手の素晴らしい食材、食文化を大切に残したい」とうなずく。

震災後、組合を挙げて被災地に赴き、振る舞った。「おじいちゃん、おばあちゃんに食べさせたい」と語った子どもの優しさが胸に残る。加盟店で三陸産ご当地ずしも発売。野田村ホタテなど各地の食材を生かす取り組みで支えた。

10代から東京で修業し、技術に加え、訪れる各界要人に生き方を学んだ。1977年に盛岡に出店。器も上質のもの、魚に加え山菜、キノコと旬にこだわり顧客を増やした。中国の王毅外相が訪れ、シンガー・ソングライター松任谷由実さんもひいきにする。

2代目の長男重就(しげなり)さん(41)と板場に立つ毎日。「『だんない?』と訪れる方もおり、職人冥利(みょうり)に尽きる」。旧安代町（現八幡平市）出身。